

## W20 スペシャル・セッション①「ジェンダー投資: 世界の新潮流」

---

### 現状・課題

---

持続可能な開発目標(SDGs)5に掲げられているジェンダー平等とすべての女性と女児のエンパワーメントを実現し、彼らの可能性を最大限に引き出すためには、民間企業や投資家による積極的な取り組みが不可欠である。近年の世界的なジェンダー問題についての議論を受け、金融機関は徐々に自らの投資分析や投資判断にジェンダー課題を組み込み始めている。

ジェンダー投資(Gender-lens Investing)は、ジェンダー平等および女性のエンパワーメントに資金を振り向ける手段としてだけでなく、眠った価値(例えば、高い成長の見込みがありながらも資金調達が出来ていない女性起業家など)を認識し、潜在的なリスク(セクシュアルハラスメント、従業員の低い定着率、不適切なバリューチェーン展開)を特定するための戦略的な手段ともなり得る。投資家が投資判断にジェンダー視点を加味するようになれば、投資される側である企業はそれぞれの行っているジェンダー平等に対する取り組みに対し、より高いレベルの透明性と説明責任を求められるようになる。

こうした動きに注目し、より多くの金融機関が投資判断にジェンダー要因を組み込み始めている。2017年には、世界最大の年金基金である年金積立金管理運用独立行政法人(GPIF)が自身のESG投資対象としてMSCI日本株女性活躍指数(WIN)を採用した。世界でも、同様の取り組みが増加しており、2018年9月現在、40近いジェンダーファンドが上場されており、今後も更に増えるとみられている。非上場市場でもジェンダーを投資戦略に組み込んだファンドの数は過去2~3年のうちに2倍以上に増加している。

さらには、政府機関や開発金融機関も投資分析や投資判断にジェンダー要因を積極的に取り入れ始めている。国際協力銀行(JBIC)と国際協力機構(JICA)は投資を通じた女性の経済的エンパワーメントを目的とした「G7 2X チャレンジ: 女性のためのファイナンス 2X チャレンジ」に署名した。その他にも、日本 ASEAN 女性エンパワーメント基金(JAWEF)、女性起業家資金イニシアティブ(We-Fi)、Fund Mujer、Investing in Women イニシアチブなど、世界各地で多様な取り組みが行われている。

このような世界的な動きを受け、笹川平和財団とWE EMPOWER JAPANが共催する「ジェンダー投資: 世界の新潮流」では、ジェンダー投資分野のリーダーや専門家を招き、より多くの資金をジェンダー平等と女性のエンパワーメントに向けるための具体策を議論する。

### 論点

---

- SDGs や ESG 投資への注目が日本国内で高まる中、ジェンダー投資の世界的な動きに対する投資家、企業、メディアの関心を高めるにはどのような戦略が必要か? どのような好事例があるか?
- 投資家は、ジェンダー投資を実行するためのツールとして「女性のエンパワーメント原則」(WEPs)をどのように有効活用できるか?
- ジェンダー平等と女性のエンパワーメントの実現に向けて、金融機関が果たせる役割は何か? また、そのような役割を果たすことにより、金融機関が得られるメリットは何か?
- G20 諸国においてジェンダー投資を推進するためには、主要なステークホルダーとのネットワークをどのように構築していくべきか?